平成26年度発達障害に関する教員の専門性向上事業

神石高原町立三和小学校の取組

神石高原町立三和小学校

<学校概要>

平成27年1月21日現在

◆在籍児童数　125名
（通常の学級6学級，特別支援学級2学級）

◆学校が統合した平成23年度当初から，特別支援教育の考え方を取り入れ，巡回相談の結果を，個別の指導計画及び授業での具体的な指導に反映。

◆学校が支援を要すると判断した
通常の学級の児童数9名
（個別の指導計画を作成済）

<校内体制>

平成27年1月21日現在

◆特別支援教育コーディネーター1名指名

◆ケース会議実施（5月，各学期末に1回）
→全校で共有すべき点は職朝・暮会で周知

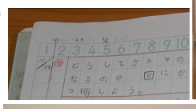
◆校内委員会開催（4・5月，7月，10月）
→個別の指導計画を作成する児童の決定など

◆巡回相談4回実施済
→巡回相談後，個別の指導計画の修正

1　学校全体の取組

①全学年の「学習の流れ」の統一

②ノートの書き方の統一



③教室前面の掲示物の制限

2　授業実践報告（概要）

【授業概要】
◆算数科　第2学年
「かけ算（1）」
◆基準量が後に示された適用題を，図を活用して解くことができる。

【学級全体の状況】
◆ 九九を用いてかけ算の式の答えを求められるが，文章問題を解くことに苦手意識をもっている。

【個の状況】
◆児童A・・・着席が難しく，じっとしていられない。自分でうまくできないとわかると，すぐに泣いたりはぶてたりする。
児童B・・・集中できる時間が短く，私語が多い。記憶することが苦手で，かけ算九九をなかなか覚えられない。

2　授業実践報告
（学級全体への支援）

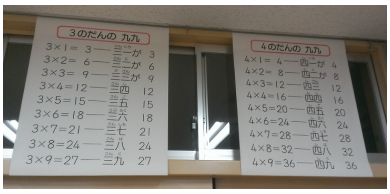
①「学習の流れカード」の提示

「学習の流れカード」により，毎回，授業をパターン化し，活動の見通しを持たせた。

タイムタイマーで，制限時間を設定し，集中力を高めた。

２　授業実践報告
（学級全体への支援）

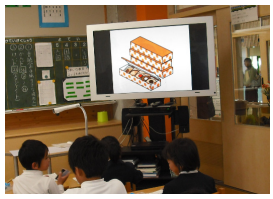
②復唱による既習事項の復習



記憶の苦手な児童のために，教室掲示物で既習事項を繰り返し音読させ，計算技能の習熟を図った。

２　授業実践報告
（学級全体への支援）

③教材提示装置による視覚化



「教材提示装置」と「電子黒板」で，教科書の絵を拡大したり，ブロック等の具体的な操作を見せた。目で見てわかる視覚的支援を重視した。

２　授業実践報告
（個への支援）

①数図ブロックの操作

数の構成が分からない児童のために，数図ブロックを具体的に操作させて，「1つ分」の数に着目させ，基準量の理解を促す。

２　授業実践報告
（個への支援）

②アレイ図の活用

おかしのはこが4つあります。
1つのはこには，おかしが5こずつはいっています。
みんなで何こになりますか。

文章問題を読んで立式するときに，〇の図を書かせ，さらに1つ分を線で囲ませることで，基準量の理解を促した。

２　授業実践報告
（個への支援）

③問題量の工夫

① 2×5　② 4×8　③ 3×4　④ 5×5　⑤ 4×9
⑥ 3×3　⑦ 5×9　⑧ 4×7　⑨ 2×7　⑩ 3×8
⑪ 2×4　⑫ 3×7　⑬ 5×2　⑭ 4×4　⑮ 5×8
⑯ 5×1　⑰ 2×2　⑱ 4×3　⑲ 3×5　⑳ 2×3

制限時間内に，全部できる自信のある児童は，⑳までやる。
全部できそうにない児童は，⑩までもOK。

書くことの苦手な児童のために，問題量を減らしたり，文章で答える場合，ポイントを押さえていればそのことを評価したりした。

３　成果と課題

【成果】

〇教材提示装置よる視覚化は，文章問題のイメージ化に有効だった。

〇 アレイ図で立式の間違いが減った。

【課題】

▲ブロックの操作は，時間がかかった。アレイ図のみ，書かせていく。